

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 自主自立の精神を培い、違いを認め合う豊かな人間性と確かな学力を身につけ、社会における個人のあり方を考えられる生徒を育てる。
- 1 地域に根差し、家庭や大学等と連携して吹田東ならではの豊かな教育環境を築く。
 - 2 自ら学び、理論的に考える態度をはぐくむ、特色ある吹田東の「学び」を確立する。
 - 3 安全で安心の中で、一人ひとりの生徒が活躍できる吹田東をめざす。

2 中期的目標

新しい校舎への建て替えの機会を生かし、吹田東高校の組織的な教育活動の確立をめざす

- 1 学習指導要領等に基づきICTを活用したわかる授業等、生徒の授業への参加意欲の向上
 - (1) ICTを活用した授業実践を推進
 - (2) 生徒の授業等への参加意欲を向上させる。
※授業への参加意欲を向上させることにより、生徒向け学校教育自己診断における「全体として授業に満足している」の肯定的回答（平成26年度61%）を、平成29年度には70%にする。学習の手引きは役立っている肯定的回答（平成26年度39%）の5%アップを図る。
- 2 確かな学力、高い志をもてる学習支援
生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部施設も積極的に活用を検討する。
 - (1) 進学実績等で達成感を維持する。国公立関関同立産近甲龍130名、センター志願者100名以上
 - (2) 教科として講習の実施について年間計画を策定する。土曜講習の中に青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー：大阪大学生が補助で入り込み）を設定する（1、2年）。自習室の利用促進を図る。
※生徒向け学校教育自己診断における「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答（平成26年度84%）を維持する。
 - (3) 漢字検定、英語検定、TOEIC BRIDGE等を1、2年生全員受検させる。
※生徒が達成感を持って、漢字検定に取り組むよう、総合と国語科授業で連携しながら前年度より3級不合格者を減少させる。また、2年次において、前年度の3級不合格者の半数以上を合格させる。TOEIC BRIDGEの有効性活用をさらに進め、達成感等を持たせる取組を策定する。
 - (4) S講座（外部講師が本校で講習をする実力養成講習）を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する
 - (5) 成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科実施する。1、2年は土曜講習などの中に青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー：大阪大学生が補助で入り込み）を設定する。
※成績不振による原級留置者0名を目標とする。
 - (6) 図書室、自習室の利用促進
- 3 安全で安心な学校・生徒が自信をもって社会に巣立つ学校づくり、自尊感情の育成・自己肯定感の醸成
 - (1) 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を醸成する。
遅刻指導、服装指導、ベル着指導（チャイムと同時に授業開始）を継続しておこなう。
※年間遅刻数1500回（年間一人平均1.5回）以下を維持する。
 - (2) 社会で通用する人材を育成するため3年間のLHR計画などを策定する。
 - (3) 教育相談を充実させ、困り感を有する生徒の個別の支援教育活動を充実させる。
「担任の先生は気軽に相談できる。担任の先生以外に、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定的回答を平成28年度には10%アップを図る。
 - (4) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。
 - ・特別活動を活性化。そのために、学校行事、学年行事、部活動を活用する。
 - ・生徒委員会活動等を活性化。図書委員、保健委員、HR代表、庶務委員会、体育委員、風紀委員、合唱委員、文化委員
 ※生徒向け学校教育自己診断における「クラスの活動に積極的に関わっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答を毎年7割をめざす。（平成26年度70%）
- 4 開かれた学校づくりと広報活動の充実
 - (1) 開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校との連携を図る。
 - (2) 本校の特色を活発に広報する。
 - ・ウェブページ、本校の学校紹介のパンフレット、プレゼンテーションソフト、DVDを適宜更新するとともに、中学校、塾の訪問を継続実施する。
 ※新入生アンケートの「吹田東高校のホームページを見たことがある」の回答（平成26年度72%）を引き上げ、平成29年度には80%以上に上げる。
- 5 人材育成への取組
 - (1) 設立7年目を迎えるGUTS（若手塾）の取り組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。
 - (2) 経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組を。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
(1)「進学してよかった」とする生徒が80%近く、保護者が85~90%となっている。一定の評価を得ているが、「シラバスの活用」「授業のわかりやすさ」など個別には課題がある。 (2)シラバスが役立っているとする生徒が2・3年生では50%を下回り、保護者においても「わからない」とする回答が最も多い。年度初めに配布するだけでなく、授業計画として活用することも大切である。 (3)保護者は、人権教育について「わからない」とする回答が多い。 (4)40期生の経年変化では、教員の相談について学年が上がるごとにその信頼は増しているが、更なる向上が望まれる。 (5)教員アンケートでは、分掌や委員会の業務は組織的に行われ機能しているが、組織間の連携は不十分だと感じている。	第1回 ・ICT機器は日々進歩しており、使用方法について研修する方が良い。教材作成については職員同士で意見を出し合い、授業の工夫が必要。 ・中学生向けリーフレットでは、仮校舎に関する情報を提供し、施設の充実さ快適さをアピールすること、特色ある部活動（能楽部）は写真を使った紹介が良い。 第2回 ・部代表者会議で、部活動に関する伝達事項やウェブページへの原稿、行事等での役割分担を話し合っているのは、よい取組みだ。大学では自分たちでしなければいけないことで、高校からの経験は、大学生になってから役立つ。 ・仮設校舎はトイレやエアコンが新しいものになり、プレハブというイメージはなく立派だ。このことは中学生や地域の人々に積極的に広報するとよい。 第3回 ・シラバスについて保護者の認識が低いのは、説明が不十分なためと思われ、ウェブページを充実させ、そこでシラバスもわかるようするとよい。ウェブページの閲覧が低いので学校からの情報源として活用する工夫がいる。 ・S講座や補習・講習をしっかりと行っているため、塾や予備校に行かなくてもよいと私立高校のように広報することも大切。 ・学校教育自己診断の分析で、クロス集計を活用すれば問題の所在がもっと明確になる。分析方法に工夫が必要。

府立吹田東高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
ICTを活用した授業への参加意欲の向上	(1) ICTを活用した授業実践を推進 (2) 生徒の授業等への参加意欲を向上させる。	(1) ICT (電子黒板、プロジェクター、TV、ビデオ、書画カメラ、パソコン、タブレット等) を授業で活用する。・電子黒板を活用した授業教材を開発 (2) ICTの授業活用で、興味・関心を引き付け、生徒の理解を深め、参加意欲を向上させる。 ・授業改善委員会等を通じ、授業アンケート、授業観察シートを、授業改善に活用する。教科として、具体的な取組計画、評価指標、自己評価を作成する。 ・ICTを活用した公開授業を実施し、授業力の向上を図る。	(1) 教員対象講習を実施する。ICTの長所を生かした公開授業を、教科で検討する。・20点以上の教材開発を行う。(2) 「全体として授業に満足している」の肯定的回答(平成26年度61%)を、70%にする。・授業アンケートで、授業内容に興味・関心の項目の値3.12、と2回目において、全体の平均値の向上。・授業観察シートの活用度向上。・教員相互の授業見学実施率80%(平成26年度71%)	(1) 教員対象講習(5)回(◎) ・公開授業実施のべ112名 ・教材開発…全教科で活用した授業を実施(◎)(2)授業に満足57.9%(○)・授業アンケート2.99(○)ICTの活用実績は飛躍的に伸びたが生徒の授業満足につながらなかった。来年度は、効果的なICT活用をめざす。 ・授業観察シートの提出50数、授業見学実施率88%(◎)
確かな学力、高い志をもつ学習者	生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部施設も積極的に活用を検討する。 (1) 進学実績等で達成感を維持する。 (2) 教科で講習の年間計画の策定実施 (3) 漢字検定、英語検定、TOEIC BRIDGE等を1、2年生全員受検させる。 (4) S講座を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する (5) 成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科実施する。 (6) 図書室、自習室の利用促進	(1) 進学実績等で達成目標を設定する。3年間の進路指導計画を設定する。自宅での学習習慣の確立や講習への参加促進のため保護者との連携を強化する。・進路指導部が卒業生の進路状況を分析し、教職員全員参加の情報交換会を行う。(2) 年間通して土曜日、平日放課後、早朝の講習と夏季講習を実施する。土曜講習の中に青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み)を設定する。8月大学の自習室を活用し、勉強へのモチベーションもアップさせる。 (3) 1、2年生で、漢字検定、TOEICBRIDGEテストを実施することにより、資格取得と次への意欲喚起を行う。 (4) 外部講師に対し、指導方針をたて効果がえられるようにする。講習参加者が最後まで継続できるようにする。 (5) 指名補習の欠席者に対しては、生徒を指導するとともに保護者にも連絡する。・合格に向けて週休日の家庭学習の定着を図るため、総合で学力生活実態調査を実施し、成績不振者は宿題等個別指導をする。 (6) 図書室の蔵書を使って生徒が調べ・学ぶ授業を増やす。・生徒の心の糧となる読書をすすめる。大学も含めた自習室の利用促進を図る。	(1) 関西私立大(国公立関関同立産近甲龍)現役合格者数130名・センター志願者100名以上。・3年間の進路指導計画の効果的実施の実現。・現1年生の2年次4月の学力生活実態調査で、Bゾーン以上の生徒比率を今年度より5%以上アップさせる。・保護者懇談(平成26年度94%)、進路ガイダンス等の参加率の上昇。・授業以外の学習時間1時間以上の生徒増加(平成26年度1年40%2年33%3年69%)(2)「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答(平成26年度84%)を維持する。講習の実施回数の確保、申込者の出席率確保を図る。(3)漢字検定3級の不合格者数1年では現状維持、2年では1年次の半減(平成26年度1年69人、2年27人)・TOEICBRIDGEで、目標1年生平均110点(H26平均106.6)、2年生平均115点(104.5)(4)欠席者に対して、欠席者へ連絡する等支援を行う。出席率のアップ。(5)成績不振による原級留置者0人。(6)表現演習・政治経済演習・総合の時間等授業で、図書室利用を図る。生徒図書委員による図書館便りの発行。来室生徒数、貸出冊数の増(H26年1055冊)・自習室の利用1日平均12人以上。学習習慣定着のため、大学の自習室も活用する。	(1) 現役合格者数151名(◎)センター志願者数80名(○)生徒の状況から、私立大学一般入試に指導に重点をおいた。・H27年度41期生2年次における学力生活実態調査成績は、H26度40期生2年次と比較し、Bゾーンまでの累積人数が67名から195名と増加。(◎)(2)・先生の講習は役に立った。79.6%(△)・(2年生)国語・数学の土曜講習を年間10回ずつ実施、・国数英の夏期講習を各5回ずつ実施(○)・(3年生)進路実現に向けて年間を通して英・数・国・理・社の進路別講習、夏季休業中の講習を実施(○)1時間以上の学習時間(1年38%、2年39%、3年62%)(○)(3)漢字検定3級不合格者数1年46人2年7人(◎)TOEICBRIDGEで、1年生平均116.3、2年生平均118(◎)(4)(1年生)欠席者の保護者に連絡を入れる。途中より習熟度別クラスの実施。S講座出席率75%(昨年70%) (5)(1年生)学力生活実態調査不振者は居残り講習、教科の成績不振者は考査前の指名講習の実施。・国数英のテスト前の土曜補習毎回実施。成績不振による原級留置0人(○)(6)夏季休業中の大学自習室の活用(生徒申込者数236名)・(1年生)懇談前に受験科目調べをさせた。・図書室来室者数は増加(特に1年生)、「表現演習」「政経演習」では図書室活用。今年度の図書貸し出し冊数は696冊。これは例年よりかなり少ないが、夏休み前後に引越しの為に図書室を閉めたため。(○)
安全安心な学校、生徒が自信を持って社会に巣立つ学校づくり・自尊感情の育成・自己肯定感の醸成	(1) 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を醸成する。 (2) 国際社会で通用する人材を育成するためLHR計画や総合的な学習の時間の計画等を作成実施する。 (3) 教育相談を充実させ、困り感を有する生徒の個別の支援教育活動を充実させる。 (4) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。・生徒委員会活動等を活性化させる。	(1) 遅刻指導、服装指導、ベル着指導を継続しておこなう。・遅刻者に対しては、段階的な指導を行う。・服装指導の高い評価を継続する取組み推進。・清掃習慣の定着に向けた取組み推進。(2) LHR計画や総合的な学習の時間で、志学に取り組む。特に生命尊重の取組み、防災教育の取組み、人権尊重の教育、キャリア教育、健康教育を推進する。国際理解教育の一環として、海外の高校との交流と、語学研修の実現とその成果を共有化する。(3) 教育相談について生徒に周知し、相談しやすい雰囲気をつくる。・高校生活支援カードの有効利用。・定期的な教育相談委員会の開催により、支援の必要な生徒を早期に把握し、適切な支援を行う。また、必要に応じて外部機関や専門家との連携を図る。(4) 学習活動を中心にする上で、学校行事・部活動に取組ませることで段取り力を育成し、達成感を持たせる。1、2年生耐寒行事の実施。・クラブ代表者会議を通じて、生徒のリーダーを育てるとともに、部活動を活性化させる。・各生徒委員会を指導する分掌や係を明確化する。それにより、生徒委員会活動を活性化させる。(図書、保健、HR代表、庶務、体育、風紀、合唱、文化委員)	(1) ア年間遅刻数(年間一人平均1.5回以下)を維持(平成26年度1.08回)。授業中の服装指導、ベル着指導の実施。生徒が前向きな清掃活動を月1回実施。 (2) 1年次に生徒同士の集団づくりや俳句創作や発表の機会を設ける。 ・オーストラリアとの交流・語学研修実施。希望者20名以上(H26年18名) (3) 「担任に気軽に相談できる」(H26年58.7%)「担任以外に相談室等で気軽に相談できる先生がいる」(H26年38.3%)の肯定率を上げる。 (4) 「クラスの活動に積極的に関わっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答の上昇(平成26年度70%) ・新入生の部活動加入率の維持(平成26年度85%)・生徒委員会活動の年間計画どおりの実施。	(1) 一人平均0.91回(昨年度1.08回) (◎)(2)1年生遠足のバス内でハートプログラムの実施。10月1年生総合的な学習で「俳句の賞に応募しよう」で18名が入選(◎)オーストラリア語学研修6名参加。(△)(3)(3年生)進路相談、生活相談等を生徒との二者懇談、保護者を含めた三者懇談を期間中以外にも実施した。進路実現に向けて放課後を利用して面接指導を実施した。・規範意識の確立の為に身だしなみ指導(頭髪・服装・化粧)、基本的な生活習慣確立の為に早朝登校指導等を実施。・情報化社会に対する指導としてSMS等の適正指導を実施。「担任に気軽に相談できる」(H27年60.3%)「担任以外に相談室等で気軽に相談できる先生がいる」(H27年39.9%)(◎)(4)「クラスの活動に積極的に関わっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答の上昇(平成27年度68.6%)(○)・新入生の部活動加入率の維持(平成27年度85%)(○)・部活動活性化のためクラブ代表者会議の定期的実施(◎)
4 開かれた学校づくりと広報活動の充実	(1) 開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校との連携を図る。 (2) 本校の特色を活発に広報する。	(1) 体育祭、文化祭等学校行事の公開。・クリーンキャンペーン(地域清掃活動)などで、地域連携の活性化を図る。・幼稚園での生徒実習をおこなう。・中学校との相互の公開授業を行い生徒の授業理解度を高める。・大阪大学等との連携を継続する。・地域教育協議会等に参加し、その行事への生徒の参加を促す。(2) 広報渉外等を担当するGTOのメンバーとして、副担、新任4年目迄及び有志教員で運営していく。分担すべき内容についても、見直しを行う。ウェブページに、情報を発信する。・学校説明会等で使用する本校紹介プレゼンテーションソフトやDVDをさらに魅力あるようにバージョンアップする。・中学校訪問、塾訪問を継続実施し、情報収集と広報に努める。	(1) 体育祭、文化祭等行事の地域からの参加者数の増加。・幼稚園での生徒実習8回維持・地域教育協議会等への参加等を昨年と同程度確保。地域と保護者との共同企画も検討する。・クリーンキャンペーンの参加者320名以上(平成26年度357名)・中学公開授業参加者数の維持(平成26年度10名)・「本校のホームページを見たことがある」の回答(平成26年度72%)を引き上げる。(2) 全教員による中学校訪問の実施。(平成26年度ほぼ全員)組織的に役割を担えるように、改める。ウェブページの更新回数24回以上(平成26年度25回)。	(1) 地域の参加者(PTAを含む)…体育祭約400名、文化祭約2500名、合唱コンクール約100名(○)大半がPTAで、地域は招待者中心に来場。PTA増加。 ・例年通りの生徒実習+吹田市子育て支援センターで交流の実施。(◎) ・地域教育協議会に校長・教頭参加(◎) ・クリーンキャンペーン生徒330名(◎) ・「本校のホームページを見たことがある」77%(◎) (2)・中学校訪問…全教員で実施(◎) ・ウェブページの定期更新24回+臨時更新随時実施(◎)
人材育成への取組	(1) 設立7年目を迎えるGUTS(若手塾)の取り組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。 (2) 経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組みをする。	(1) 校内での研修においては、参加体験型の研修を中心に、今後直面するテーマを取り上げて、OJTを進める。 (2) GUTS(若手塾)等で、研修講師を務める。公開授業の実施。	(1) GUTS年間8回以上(平成26年度8回) (2) 研修講師又は公開授業の実施などの機会を、年2回以上設定する。	(1) GUTS 9回(◎) (2) 講師による研修2回、公開研究授業1回実施(◎)